



学力向上を目指して

学力向上推進主任 上岡 佐和子

今年度から完全実施となった新学習指導要領では、何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶかということを中心とし、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を目指すべき資質・能力の柱としています。本校でも、未来の創り手となる子どもたちの学びを保障するため、様々な授業改善に努めています。今年度、授業を見ていただく機会を設けられなかったのは残念ですが、授業改善の取組について紹介します。

① 松山の授業モデルを参考にした授業づくり

本校でも松山市で作成されている授業モデルを参考に学習活動を進めています。学習場面を「学習課題の設定」「交流し考える学習」「学習の振り返り」の三つに分け、一人一人が分かる喜びや共に学ぶ喜びを実感できる授業づくりを目指しています。「学習課題の設定」では、その学習の中で何を学ぶのか明確に提示し、子どもたちがゴールイメージや進むべきプロセスイメージをもって学習をスタートできるよう心掛けています。ゴールイメージをしっかりとつこと、プログラミング的思考を促すことにもつながると考えています。「交流し考える学習」では、考えを深め合う場として「ゆめタイム」を設定し、様々な授業場面で活用しています。対話を通して多様な考えと出会い、自分自身の考えを深めていく「ゆめタイム」を目指しています。「学習の振り返り」では、振り返りの視点を明確にし、学習課題に沿って自らの学びを振り返り、学習の成果や他者と共に学ぶ価値を実感できるよう工夫しています。今後も松山の授業モデルを基に、湯山小学校ならではの取組を実践していきたいと思えます。なお、松山の授業モデルは、松山市研修センターのHPにてご覧いただけます。



② 全国学力・学習状況調査から

今年度は全国一斉の実施ではありませんでしたが、本校では、2学期に実施いたしました。学校内での問題冊子の活用ということで全国平均との比較はできませんが、調査結果から本校の子どもたちの学習の状況を分析しました。国語科では事実と意見を区別して条件に合わせた文章を書くこと、算数科では解法の仕方や理由を説明することに課題が見られました。内容を整理しながら自分の考えを書くことは、学習した知識や技能を用いて表現し、思考力や判断力を育む上でも大切なことです。単に答えを出すだけではなく、「なぜそう思ったのか。」「どうしてそうなるのか。」ということを考える学習を大切に授業改善に努めていきたいと思えます。全国学力・学習状況調査の問題や正答例については、文部科学省HPにて公開されていますので、ぜひご覧ください。